

癌化学療法輸液約束処方 急性前骨髄球性白血病

癌種 急性骨髄性白血病・骨髄異型性症候群

レジメン名 APL1 トリセノックス(INN)

薬品名(商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与経路	投与時間	投与日	1クール期間
トリセノックス	三酸化ヒ素	INN	0.15 mg/kg	div	2時間	DAY 1-60	最大60日

【DAY 1-60】Div

① NS 50 ml / 全開

② NS 250 ml + トリセノックス _____ mg / 2時間

③ NS 50 ml / 全開

[併用注意]QT延長、心室性不整脈を起こす危険あり

ドロペリドール、抗精神病薬(クロルプロマジン、ハロペリドール、ピモジド、チオリダジン等)

抗うつ薬(イミプラミン等)、フロセミド、ファモチジン、プロピペリン、

抗不整脈薬(アミオダロン、ベプリジル、ジソピラミド、フロカインアミド、キニジン、ソタロール等)

消化管運動亢進薬(シザプリド、ドンペリドン等)、抗真菌薬(フルコナゾール等)

抗菌薬(クラリスロマイシン、エリスロマイシン、スパルフロキサシン等)

利尿薬(トリクロルメチアジド等)、アムホテリシンB:電解質異常を引き起こす危険あり

<廃棄物の取り扱いについて>

投与に使用した輸液バック、点滴ラインは全て密封し、当日中に薬剤部へ返却する

< 備考 >

①APL分化症候群(レチノイン症候群と類似)発現時は休薬し、ステロイドパルス療法等の適切な処置を行うこと。

②急性ヒ素中毒(痙攣、筋脱力感、錯乱状態等)発現時:キレート治療する

参考:ジメチルカプロール1回2.5mg/kgを 最初の2日間は1日6回4時間ごと、3日目は1日4回、以降10日間または回復するまで毎日2回筋肉注射する

③催奇形性あり:取扱い注意

④寛解導入後、地固め療法などの治療はいくつか報告有り。治療の進行状況は適宜確認のこと。

R1.9.26改訂